

米国のインフレ長期化懸念の行方



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 長引くインフレに沈静化の兆し？

米国では長引くインフレを背景に、FRB（米連邦準備制度理事会）が早期利上げに向けた地ならしに動く姿勢をみせるなど、金融政策の動向に対する不透明感が高まっています。ただ、足元ではインフレ長期化への懸念を和らげるような材料も出てきました。WTI原油先物価格は直近高値から約22%下落、ばら積み船の市況を総合的に表すバルチック海運指数も同約44%下落（ともに12月3日現在）しています（右上図）。企業のサプライチェーンの乱れによる供給制約の問題も徐々に解消に向かいつつあり、過度なインフレ懸念が和らぐ兆候が出てきた可能性があります（12/6付レポート・サプライチェーンの混乱は最悪期を脱したか？参照）。

ポイント② オミクロン型の動向を注視

もちろん、新型コロナウイルスの新変異株であるオミクロン型の感染拡大が世界的に広がれば、供給制約問題が再び浮上してくることも考えられます。もっとも現時点では、オミクロン型の重症化リスクがこれまで確認されている他の変異種と比べて高いという報告はなく、世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が進展していることもあり、その可能性は低いかもしれません。足元で原油や鉄鉱石など商品価格の総合的な動きを示すCRB指数の前年比伸び率は38%と依然として高いものの、峠を越えたようにもみられます。同指数の前年比と米ブレイク・イーブン・インフレ率（市場が推測する期待インフレ率を示す指標）は連動する傾向があり（右下図）、インフレ期待も収まっていくのではないのでしょうか。来年インフレが鎮静化に向かう動きがみられてくると、現在市場で高まっている過度な利上げ懸念が後退する可能性があります。

WTI原油先物価格とバルチック海運指数



期間：2014年1月3日～2021年12月3日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

CRB指数（前年比）と米ブレイク・イーブン・インフレ率



期間：2014年1月3日～2021年12月3日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。